

# ■ ■ 当たり前前のこと手助けしたい

病気の子どもの預かる病児保育サービスを2004年から運営する東京都の特定非営利活動法人「フローレンス」の駒崎弘樹代表理事(30)に起業の経緯や意義を聞いた。

大学在学中にIT(情報技術)ベンチャー企業で社長として働いたが、違和感を抱いていた。自分は何をしたいのか考え、社会に役立つことをやりたいんだと気付いた。

そのころ、子どもの発熱で会社を休んだために女性が解雇さ

## 病児保育事業を運営する 駒崎弘樹さんに聞く



れた話を耳にした。病気の子どもの預かってほしい。それまで関心のなかもを預けて親が働ける、そんなった保育の世界に飛び込んだ。当たり前前のごうができる手助け 最初は商店街の空き店舗の活

用を考えたが、行政の理解を得られなかった。そこで、登録したベテランママや利用者の自宅で子どもの面倒を見ることにし、預かり施設のコストがなくなった。経営安定のため、利用者から毎月会費をもらう共済型を取り入れた。低所得のひとり親家庭の会費は抑えている。福祉にビジネスの手法を持ち込むことに批判もあるが、利益を上げれば価格を下げて多くの人に使ってもらえる。福祉の公的サービスから漏れた人をどう支えるか。そこにこそ、社会起業家が果たす役割があるはずだ。

社会起業家 1980年代以降、規制緩和と政府機関の民営化が進んだ英国を中心に、福祉や貧困、環境などの分野で民間企業や団体による活動が盛んになった。補助金などの公的資金に頼らず収益確保を図るのが特徴。日本でも10年ほど前から広がり、国内市場規模は経済産業省の研究会推計で約2400億円。組織形態は特定非営利活動法人(NPO法人)が約5割、株式会社など営利法人は約2割にとどまる。